

星槎大学紀要投稿規定

(平成 19 年 9 月 26 日一部改訂)

(平成 26 年 3 月 5 日一部改訂)

(令和元年 7 月 10 日一部改訂)

(令和 2 年 6 月 24 日一部改訂)

1. 発行の目的

星槎大学および星槎グループにおける共生に関する研究・活動の成果を発信し、広く教育・研究の発展に寄与することを目的とし、年 1 回の発行を原則とする。

2. 投稿資格

星槎大学を中心とする共生科学研究の成果を公表することにより、広く教育・研究の発展に寄与することとする本誌の目的に適う内容であり、体裁が別に定めた「執筆要領」に合致すると編集委員会が認めたもの。

- (1) 星槎大学の教職員
- (2) 客員教授、客員研究員（ただし客員研究員規定第 2 条 1、2 項に該当する者）
- (3) 大学の共同研究における研究分担者、研究協力者
- (4) 星槎グループの教職員
- (5) 委員会から原稿執筆依頼を受けた者
- (6) その他委員会が適当と認めた者

3. 執筆要領

投稿原稿の執筆・提出にあたっては、別に定める星槎大学紀要「執筆要領」に従う。

4. 原稿の種別・分量

4-1. 原稿の種別

原稿の種別及び内容は次のとおりとし、いずれも未発表であることを原則とする。

- (1) 論文：著者自身のオリジナルな研究成果をまとめたもので、新しい知見を含み、結論が明確なもの。論説・総説を含む。
- (2) 研究ノート：研究方法、教材開発、調査や研究の報告などをまとめたもの。
- (3) 教育研究活動：教育実践・実習活動などで得られた成果をまとめたもの。
- (4) 書評・図書紹介
- (5) その他：編集委員会が必要と認めたもの。

4-2. 原稿の分量

論文、研究ノート、教育研究活動の原稿は、いずれも刷り上り 15 ページ以内を原則とする。書評・図書紹介の原稿は 2 ページ以内とする。いずれも図表を含む分量である。なお、刷り上り 1 ページは 41 字×37 行（1517 字）である。

5. 二重投稿・著作権・研究倫理

5-1. 他の原著論文誌に掲載済み、または投稿中の原稿は投稿できない。

5-2. 所内報、研究グループ誌、商業誌、単行本などと重複した内容をもつ原稿は、投稿

するとき必ずその旨を明記し、著者自身で著作権問題を解決し、かつそれを示す資料を添える。

5-3. 著作権が他の学会・出版社にある出版物より図・表などを引用する場合は、著作権問題は同様に著者自身が解決しておくものとする。

5-4. 掲載された論文の編集著作権は、星槎大学に帰属し、機関リポジトリでの公開を前提とする。

5-5. 人を対象とした研究で研究倫理審査が必要な内容を含む論文に関しては、星槎大学倫理審査委員会の発行する承認番号を付記する。

6. 投稿手続き

投稿者は、原稿の種別、著者名、表題、原稿分量（刷り上り予定ページ数）を記載したうえで、原稿を Word で作成、図表・写真がある場合は添付し、PDF 形式のデータで編集幹事へ送付する。論文、研究ノートについては、査読者が修正箇所の指摘がしやすいようページ番号をつけておく。

7. 受付

編集幹事が原稿を受け取った日を受付日とする。

8. 受付後の原稿の処理

8-1. 編集委員会は、投稿原稿に各担当者を充て、論文、研究ノートに関しては原稿の内容に応じて2名の査読者を決め、査読を依頼する。

8-2. 編集委員会は、査読結果を担当者から著者に返却し、必要に応じて著者に修正を求める。また「執筆要領」に従い、用語・用字などを変更することがある。活字の種類・大きさ、図表の大きさや全体の体裁は、編集委員会が決める。

8-3. 著者は返却された原稿の修正を速やかに行い、印刷に支障がでないよう期限内に修正原稿を担当者に送付する。

8-4. 編集委員会は、修正原稿が掲載に値するか決定し、掲載の場合に原稿を「受理」する。著者は、受理時の最終原稿を入力したデータを担当者に提出する。文字原稿は Word、図表原稿は原稿データとは別データでの提出を原則とする。画像ファイルは、印刷段階で問題があれば個別に対応する。

8-5. 受理後、原稿の細部の体裁は、編集委員会が調整・判断し、修正を求めることがある。

9. 校正

著者校正は初校時のみ行う。著者校正時の加筆は原則として認めない。著者は、初校を受け取ったら速やかに校正を行い、編集委員会（編集幹事）に返送する。期日までに返送がない場合は、著者校正を省略するか、次号にまわすこともある。二校以降は原則として編集委員会が行い、校了とする。

10. 別刷

別刷（別刷（論文、研究ノート）を希望する場合は、著者負担（実費）とする。

星槎大学紀要「執筆要領」

(平成 19 年 6 月 27 日一部改訂)

(平成 26 年 3 月 5 日一部改訂)

(平成 27 年 7 月 22 日一部改訂)

(平成 29 年 4 月 1 日一部改訂)

(令和元年 10 月 16 日一部改訂)

執筆にあたっては、以下の項目を満たすものとする。

1. 原稿の分量

原稿の種別・表題、和文要旨、和文キーワード、本文、文献一覧を含めて以下を目安とする（図表・写真を含む）。

- ・論文、研究ノート、教育研究活動 21,000 字（刷り上り 15 ページ）以内
- ・書評・図書紹介 3,000 字（2 ページ）以内
- ・その他 編集委員会が指定

2. 原稿のページ・文字設定

- ・ページ設定 A4 判を使用し、横書き、ページ数を付記する。1 ページ 41 字× 37 行(1,517 字)とし、用紙の上下左右の余白を十分にとる。
- ・和文の場合 MS 明朝（10.5 ポイント）
- ・英文の場合 Century（12 ポイント、37 行）
- ・データ形式 原則として Word ファイルで作成する。論文および研究ノートは、査読用に行番号を付け、PDF 形式のデータで提出する。

3. 種別、表題、著者名

- ・原稿の種別 原稿の最初のページ左上に種別を記入する。
- ・表題・著者名 論文および研究ノートは、和文原稿の場合は、論文表題、著者名を和文と英文の順に、行を変えて記す。著者名の右肩に *1、*2 の記号をつけ、原稿の 1 ページ目の脚注として所属と論文責任者の連絡先（Email アドレスなど）を記載する。英文の論文および研究ノートは、英文のみで記す。

4. Abstract、Keywords、キーワード

- ・和文の論文については、英文表題、英文著者名のあとに Abstract、Keywords、和文キーワードの順に、行を変えて記す。英文の論文については英文のみで記す。
- ・研究ノートについては、英文著者名のあとに、行を変えて和文キーワードを記入する。
- ・Abstract の分量は、英文で 300 語以内とする。
- ・Keywords は 5 語程度とし、行を変えて和文キーワードを記す。

5. 本文

- ・本文 論文については 4 ページ目から、研究ノートについては 3 ページ目から、本文、注記、引用文献を書く。
- ・句読点 1 字分あてる。

- ・特殊字体 あらかじめ指定しておく。
- ・本文中の注の指定 その箇所に通し番号を肩に付し、本文末尾、文献の前にまとめる。脚注は用いない。

6. 図・表

- ・データ形式 Excel ファイルで作成し、ファイル名に番号を付ける。
- ・図の縮小率 編集委員会で決める。縮小をあらかじめ考慮し、線の太さ、文字の大きさキャプションの量などに注意する。
- ・凡例 説明とともに本図から独立させず、図中に入れる。

7. 写真

- ・対象 写真として示すべき十分な理由があり、かつ原図が鮮明なものに限る。
- ・データ形式 JPEG 形式のデータで提出し、ファイル名に写真 1…のように通し番号を付ける。

8. キャプション（図表などの表題や説明文）

- ・データ形式 原稿と別の Word ファイルにまとめて書く。

9. 引用文献

各自の関連学会の文献引用表記、文献リスト表記法に則ることにかまわない。以下に参考として、日本心理学会の引用形式、および日本社会学会の引用形式をごく簡潔に例示しておく。

<日本心理学会の表記>

・文中引用

「宮埜（2014）によれば…」, 「Miyano（2014）は…」
「…という（森川, 2014）。」, 「…である（Morikawa, 2014）。」
「…示された（白井, 2013, pp.150-152）。」（文章の引用）

・文献リスト

宮埜 寿夫（1993）. 心理学のためのデータ解析法 培風館
Cain, K. (2010). *Reading development and difficulties: An introduction*. Oxford: Wiley-Blackwell.

・ウェブ引用

Roelofs, A. (2014). Modeling of phonological encoding in spoken word production: From Germanic languages to Mandarin Chinese and Japanese. *Japanese Psychological Research*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1111/jpr.12050>

* 詳しくは日本心理学会「執筆・投稿の手引き」<https://psych.or.jp/manual/> を参照。

<日本社会学会の表記>

・文中引用

見田宗介（1979）によれば, ……である。
見田宗介によれば, ……である（見田 1979）.

・文献リスト

真木悠介, 1977a, 『現代社会の存立構造』筑摩書房.

Broadbent, Jeffrey, 1998, *Environmental Politics in Japan: Networks of Power and Protest*, New York: Cambridge University Press.

・ウェブ引用

日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」, 日本社会学会ホームページ, (2009年2月2日取得, <http://jss-sociology.org/about/shishin.pdf>).

Johns Hopkins University, 2003, “Economic Impact of the Johns Hopkins Institutions in Maryland,” Silver Spring, MD: Johns Hopkins University and Johns Hopkins Medicine, (Retrieved January 26, 2007, http://www.jhu.edu/news_info/reports/impact/2003/impact2003.pdf).

* 詳しくは日本社会学会『社会評論スタイルガイド』<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>を参照。

細 則

(平成19年6月13日制定)

1. 英文タイトルは、助詞、助動詞を除いて単語の語頭を大文字とする。
2. 氏名のローマ字表示は例示のとおりとする。YAMAGUCHI, Kaoru
3. 「はじめに」、「おわりに」、は番号を付さない。
4. 項目の階層は、次の順とする。ただし、逆転しなければ途中を飛ばしてもよい。
1. / 1) / (1) / ① / i) /
5. 1. の上下は1行空ける。/ 1) の上は1行空ける。/ それより下位階層は上下とも空けない。